

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

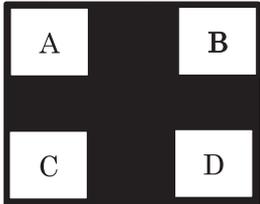
【実践者】

授業者氏名	蜂屋 有希子	学校名	新潟県立佐渡総合高等学校
教科 (科目)・領域	家庭 (ファッション造形)	対象学年 (人数)	3 年生活・福祉系列 (15 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2023 年 10 月～12 月 (6 時間)		

【実施概要】

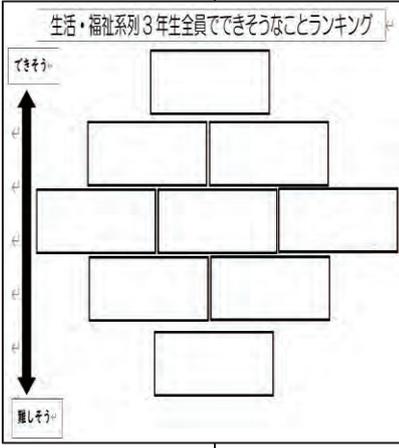
1. 単元名 (活動名) : 生活に身近な Cotton の背景にある児童労働 ～児童労働をなくすために私たちにできること～					
2. 実践する教科・領域 : 家庭科	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) : ・生活に身近な Cotton 製品の背景にある課題 (主に児童労働) について理解し、解決方法について考える。 ・「問題解決に向けて私たちにできること」を考え、実際に取り組む。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	Cotton 製品の背景にある課題 (主に児童労働) とその解決のために行われていることについて理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	提示された教材や他者の意見を参考に、「教育が受けられないこと」によって生じる問題」とその解決策について考えることができる。			
	③学びに向かう力	「問題解決に向けて私たちにできること」を考え、その達成に向けて他者と協力しながら意欲的に取り組んでいる。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由・単元の意義】 「Cotton 畑で起きている児童労働」という、身近な衣服の背景にある問題について取り上げ、消費者として、被服製作を専門的に学ぶ高校生として、その問題解決に取り組み、学んだ知識や技術を活かした社会貢献につなげていきたい。				
	【児童/生徒観】 本実践の対象となる、生活・福祉系列の 3 年生は 2 年生の頃から「家庭科被服製作技術検定合格」を目標に、布を用いて巾着袋、ハーフパンツ、甚平とさまざまな作品を作ってきた。これまでの授業では、被服製作における知識と技術を身につけさせることに終始してしまい、普段身に着けている衣服や作品製作に用いる布などの繊維製品が誰の手によって、どんなふうにつくられているのか等、身近なモノの背景やその背景にある問題について学ぶ機会を設定していなかった。そこで、本単元では、SDGs に関連した学びとして、これまでの学習で扱っていた布の背景 (もしかしたら児童労働が関わっているかもしれないということ) について取り上げることにした。なお、SDGs については他の授業で学んでおり、予備知識はある。				
	【教材観】 Cotton は最も身近な繊維であり、誰もが知っている。日常生活にあふれている身近なモノを教材にすることで、世界の問題が自分にも関係があること、自分事となりうることに気づかせたい。 また、子どもが好きで、「将来は保育士になりたい」という生徒が多く、子どもに関するテーマへの関心は高いと考えられる。				
	【指導観】 今回の実践では、グループでの話し合い活動を取り入れようと考えているが、自身の考えを他者に伝えることが苦手な生徒が多く、話し合いを促すための適切なサポートが必要である。				

	また、本実践後には身近なモノやサービスの背景や世界の出来事に対し、興味・関心を持ち、学校で学んだ知識や技術を活かして、社会に貢献することもできるということに気づいてほしい。		
7. 単元計画 (全6時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1・2 本時	生活に身近なコットン製品の背景にある課題(主に児童労働)とその解決方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> クイズ フォトランゲージ グループでの意見交換(付箋を使用、ダイヤモンドランキングの手法を用いる) 	<ul style="list-style-type: none"> インドのコットン畑で働く子どもの写真(児童労働ネットワーク) 【発展途上国・教育】SDGs 動画シリーズ//ゴール4//質の高い教育をみんなに (JICAchannel1) 「このTシャツはどこからくるの? - ファッションの裏側にある児童労働の真実 -」(認定NGO 法人 ACE)
3～6	「問題解決に向けて私たちにできること」を考え、実際に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に考えた「問題解決に向けて私たちにできること」を実行するための準備 	(例) <ul style="list-style-type: none"> 画用紙 マジック 必要な参考資料 など

8. 本時の展開 (概略)			
本時のねらい: 生活に身近なコットン製品の背景にある課題(主に児童労働)について理解し、解決方法について考える。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
第1時 導入 (5分)	1 クイズを通して、本時の学習内容を知る。 T「まず、クイズをしましょう」 Q1 今までの被服製作で用いていた布の原料は何? →A コットン B 絹 C ポリエステル D アクリル (正解はAのコットン) Q2 世界最大の綿花生産国は? →A 日本 B インド C 中国 D アメリカ (正解はBのインド)	授業への参加意欲を高めるためのウォームアップとして「部屋の四隅」を用いる。A～Dのうち、自分が正解だと思うところに移動する。	<ul style="list-style-type: none"> 自作のスライド
展開1 (10分)	2 コットン産業の児童労働の現状と課題に関する写真を見る。 T「次に、こちらの2枚の写真を見てください。これらの写真を見て、気づいたことを挙げてみましょう。 <予想される回答> ・女の子がコットンの収穫をしている。	 誰が何をしている様子か、どんなことを考えていそうか等、できるだけ具体的に書くように伝える。	<ul style="list-style-type: none"> インドのコットン産業で働く子どもの写真(児童労働ネットワーク)

<p>(20 分)</p>	<p>・表情が暗いので、嫌々やっっていそう。</p> <p>・私たちより小さい子だと思うけど、学校に行っていないのかな？</p> <p>3 発展途上国における児童労働の実態を知る。</p> <p>T「今、見てもらった写真に写っている子どもたちは皆さんより幼い子たちで、学校に行かずに働いています。それではここで、児童労働に関するクイズをしましょう。」</p> <p>①児童労働に従事する 5～17 歳の子ども数</p> <p>②児童労働が特に蔓延している業種</p> <p>③児童労働に従事している子どものうち学校に通っていない子どもの数</p> <p>T「なぜ子どもたちは学校に行かずに働いているのでしょうか？また、なぜ大人ではなく、子どもが働いているのでしょうか？雇う側から見て、大人よりも子どもの方が都合がよいのだとしたらそれはどのような理由からでしょうか？その理由を考えてみましょう。」</p> <p><予想される回答></p> <p>・家計が苦しいから。</p> <p>・企業が子どもを低賃金で雇えるから。</p> <p>・子どもの方が雇い主の命令に従ってくれそうだから。</p> <p>・教育がそれほど必要とされていないから。</p>	<p>以下に列記する内容についてスライドを用いて説明する。また、生徒の思考を巡らせるために以下の内容について全て三択で提示する。</p> <p>生徒数人に自身が考えたことを発表してもらい、その内容をワークシートにまとめる。こちらでも回答を用意しておき、生徒から出てこなかった理由を補足する。</p>	<p>・自作スライド</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2 発展途上国における児童労働</p> <p>(1) 児童労働に従事する 5～17 歳の子どもは 2020 年時点でどのくらいいるでしょうか？</p> <p>① 6000 人</p> <p>② 6000 万人</p> <p>③ 1 億 6000 万人</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2 発展途上国における児童労働</p> <p>(2) 児童労働が特に蔓延しているのはどの分野でしょうか？</p> <p>① 農業</p> <p>② 工業</p> <p>③ 商業</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 発展途上国における児童労働</p> <p>(3) 児童労働に従事している子どものうち、学校に通っていない子どもの割合</p> <p>5～11 歳 ① 8% ② 28% ③ 58%</p> <p>12～14 歳 ① 35% ② 50% ③ 85%</p> </div>
<p><本時の主発問①></p> <p>児童労働により、学校に行けず必要な教育が受けられないことで、この子たちはどのような問題に直面すると思いますか？</p>			
<p>(15 分)</p>	<p>4 教育が受けられないことによって直面しそうな問題について考える。</p> <p>T「教育が受けられないことによって、直面しそうな問題として考えられることを挙げてみましょう。もし、あなたたちが学校に通えなくなったら、どのようなことで困ると思いますか？」</p> <p><予想される回答></p> <p>・文字が読めない、書けない。</p> <p>・計算ができない。</p> <p>・保健や衛生についての知識が学べない。</p> <p>・友達と一緒に勉強ができない。</p>	<p>まず、個人で考えたことをふせんに書く。その後、各自が考えたことをグループで共有する。グループで共有された内容を発表してもらい、その内容については全体で共有できるよう板書する。</p>	

第2時 (20分)	5 前時に挙げた「教育が受けられないことによって直面しそうな問題」の関連性についてグループで考える。		
<p><本時の主発問②> 前の時間に考えた「教育が受けられないことによって直面しそうな問題」の一つ一つははたして無関係でしょうか？関連しあっている問題はありませんか？</p>			
(5分)	<p><活動のプロセス></p> <p>①各自が考えた「教育が受けられないことによって直面しそうな問題」を付箋に書く（内容が重複した場合は1枚にまとめる）。</p> <p>②付箋の内容を確認し、皆で相談しながら関連しあっているものがあれば線でつなぐ。</p> <p><生徒が気づくと思われること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み書きができなかったり、計算ができなかったりすると、できる仕事が限られてしまいそう。 ・できる仕事が限られてしまうから、自分がやりたい職業に就けず、貧困から抜け出すことが難しそう。 ・自分に対する自信がもてなくなって、夢をあきらめてしまいそう。 <p>6 教育の必要性に関する動画を見る。</p> <p>T「教育が受けられないことで数々の問題が連鎖して起こってくるのがわかりました。そのことについて、動画でも確認してみましょう。」</p> <p><動画を通して確認すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の一つ一つが連鎖している。 ・教育についても、世界共通の達成目標であるSDGsでうたわれており、すべての人に質の高い教育が必要とされている。 <p>T「動画を見てどのような感想をもちましたか？」</p> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育を受けないと、日常生活に支障をきたすということがよくわかった。 ・学校があっても先生や教材が足りなくて十分な教育が受けられないこともあるのか。教育の問題は思ったよりも複雑なんだな。 ・低賃金で働く子どもたちのおかげで、私たちは安い衣料を買うことができているのかも。 	<p>話し合いが滞っている場合は、ヒントを与える。</p> <p>グループで考えた内容を発表してもらい、その内容については全体で共有できるように板書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自作スライド ・ワークシート <p>・【発展途上国・教育】 SDGs 動画シリーズ //ゴール4//質の高い教育をみんなに (JICAchannel11)</p>

<p>(20 分)</p>	<p>・消費者として私たちにも子どもたちのためにできることがあるかもしれない。</p> <p>7 児童労働をなくすために自分たちにできることを考える。</p> <p>T「最後に、児童労働をなくし、多くの子どもたちが必要な教育を受けられるような社会にするために、すぐにできそうなことについて考えてみましょう。」</p> <p><活動のプロセス></p> <p>①個人で「児童労働をなくすためにできること」を考え、ワークシートに記入する。</p> <p><予想される回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童労働に関するポスターを描いて掲示する。 ・今日学んだことを家族や友達に伝える。 ・児童労働をなくすための募金活動に参加する。 <p>②グループ内で各自が書いたことを共有し、各自の考えと「コットン産業の児童労働をなくすための 8 つの方法例」の順位付けをする。順位をつける際は「生活・福祉系列 3 年生全員でできそうなこと」を基準に考える。</p> <p>③ダイヤモンドランキングシートにグループで話し合った結果を記入する。</p>	<p>限られた時間内で結論がまとめられるように「ダイヤモンドランキング」の手法を用いる。</p>	<p>・「この T シャツはどこからくるの？ - ファッションの裏側にある児童労働の真実 -」ユニット 4 (できることランキングを作ろう！)</p> <p>(認定 NGO 法人 ACE)</p>  <p>・ダイヤモンドランキングシート</p>
<p>まとめ (5 分)</p>	<p>8 本時の振り返りをする。次回の授業内容を知る。</p> <p>T「今日の授業を振り返って感じたことをワークシートに書きましょう。次回から今日考えた児童労働をなくすための取り組みを早速始めたいと思います。皆で協力してがんばりましょう。」</p>		
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コットン製品の背景にある課題 (児童労働等) とその解決のために行われていることについて理解している。(ワークシート) ・提示された教材や他者の意見を参考に、「教育が受けられないことによって生じる問題」とその解決策について考えることができる。(ワークシート、行動観察) 			

<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>(1) 学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実を伝えるために効果的な動画教材の活用。 【発展途上国・教育】SDGs 動画シリーズ//ゴール 4//質の高い教育をみんなに – YouTube ・ダイヤモンドランキングを活用することで、短時間でグループの意見をまとめやすくなると考えられる。 <p>(2) 外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童労働をなくすために取り組む、団体への寄付等。
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業を校内外に公開し、授業に関するアドバイス等をいただく。 ・本時で学んだことや生徒自身が調べてわかったことをもとに、児童労働について伝えるためのしおりを作成し、佐渡市内の図書館に寄贈する。

【自己評価】

12. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業内容に対して興味関心を持ち、「自分ごと」として考えられるような展開にすることができなかった。それは、私自身が「指導案通りに進めること」や授業時間にとらわれすぎてしまい、教師先導型の授業になってしまったことが要因として考えられる。 ・生徒に問いかけても答えを引き出すことができなかった。生徒目線に立って、問いを設定したり、学習意欲を高めるために導入を工夫したりするとよかった。
13. 改善点	<p>①「なぜ子どもたちは学校に行かずに働いているのでしょうか？また、なぜ大人ではなく、子どもが働いているのでしょうか？雇う側から見て、大人よりも子どもの方が都合がよいのだとしたらそれはどのような理由からでしょうか？その理由を考えてみましょう。」という問いについて考える場面では、安さに加担している「消費者としての視点」を意識させたい。日頃の消費行動を見つめ直す中で、安価な商品を生み出す背景に、消費者のニーズがあることに気づかせることで、本時の内容に対する興味関心が高まると考えられる。</p> <p>②児童労働に関する知識がなくても、提示された問いについて考えやすくなるように選択肢を設定する。</p> <p>③学習意欲を高めるためのウォームアップとして、「部屋の四隅」など生徒が動く活動を導入に取り入れる。</p> <p>④本時の授業後、参観者から「『〇〇してもらおうと思います』という言い方をよくしていましたね」「『〇分で考えてください』という言い方が気になった」と、授業中における、自身の口癖を指摘された。以上のような言い方をしていると、生徒を教師の思い通りに動かそうとする、「教師先導型」の授業になってしまいがちで、生徒主体の授業になりにくいと気づかされた。本実践後は「〇〇をやってみよう！」「〇分で考えてみよう！」というように、提案型の声がけをするようになった。すると、生徒たちの授業中の様子が以前よりも少し意欲的になった気がする。このことから、教師の声がけも「自分ごと」として考えるきっかけの一つになりうると感じた。</p>

14. 成果が出た点

①付箋や思考ツールを用いることで話し合いを円滑に進めることができた。

本実践の対象生徒は、自身の考えを他者に伝えることを苦手とする者が多い。しかし、付箋に自身の考えを整理しながら書いたり、思考ツール（ダイヤモンドランキング）を用いたりすることで、普段よりも自身の考えを伝えやすかったのではないかと考えられる。



②他者の意見を認め合う雰囲気の中で授業を進めることができた。

授業のまとめとして、「児童労働をなくすためにできること」を考えた際に、あるグループが「被服製作の授業で余った布を使って小物を作る」という案を出した。それに対して、「いいね!」と共感する雰囲気が生まれた。また、振り返りに「残った布で小物を作る案もとてもいいなと思いました。」と書いていた生徒もいた。様々な意見を聞き、認め合うことは多様な価値観を受け入れる土壌にもなると思うので、そのような雰囲気づくりは今後も心がけていきたい。

15. 学びの軌跡
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

【生徒の振り返り】

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
1億6000万人その子で世界が暮らす学校はもはや不可能になっていること。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
情報や知識を多くの人に伝達する問題が自己解決できることが安全な世界になるから、感謝と理解の大切さを伝える必要がある。

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
学校に通うだけで世界を学ぶ、また仲間や先生が自分の心を育ててくれることに感動した。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
・自分自身、周りの人々に感謝の気持ちを伝えること、感謝の気持ちを伝えること、感謝の気持ちを伝えること。

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
自分より若い子が学校に行かなくていいこと、学校に行かなくていいこと、学校に行かなくていいこと、学校に行かなくていいこと、学校に行かなくていいこと。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
・借金や借金の返済を減らす、借金や借金の返済を減らす、借金や借金の返済を減らす、借金や借金の返済を減らす、借金や借金の返済を減らす。

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
世界の思惑が、誰かが思っていること、誰かが思っていること、誰かが思っていること、誰かが思っていること、誰かが思っていること。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
・誰かが思っていること、誰かが思っていること、誰かが思っていること、誰かが思っていること、誰かが思っていること。

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
今、自分達が当たり前に行っていることが、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
・自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
自分達が当たり前に行っていることが、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
・自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
世界の人々が当たり前に行っていることが、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
・自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。

6 振り返り
①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
自分が当たり前に行っていることが、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。
②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
・自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること、自分達が当たり前に行っていること。

6 振り返り
 ①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
 授業内容がわかりやすく、200人もの人が学校に行かずに働いているという事実を知ることができました。

②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
 学校に行かずに働いている人たちの生活について調べたいと思います。

6 振り返り
 ①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
 児童労働をしている子供たちの生活について知ることができたこと、学校に行かずに働いている子供たちの生活について知ることができたこと。

②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
 児童労働について詳しく調べる。

6 振り返り
 ①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
 学校に行かずに働いている子供たちの生活について知ることができたこと。

②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
 学校に行かずに働いている子供たちの生活について詳しく調べる。

6 振り返り
 ①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
 学校に行かずに働いている子供たちの生活について知ることができたこと、学校に行かずに働いている子供たちの生活について知ることができたこと。

②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
 学校に行かずに働いている子供たちの生活について詳しく調べる。

6 振り返り
 ①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？
 教育を受けるための生活の中で働くことについて知ることができたこと。

②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？
 学校に行かずに働いている子供たちの生活について詳しく調べる。

児童労働に従事する子どもの多さや自分たちよりも幼い子どもたちが学校に行かずに働いているということが特に印象に残ったようだ。

また、本時の内容を今後どのように活かしていきたいか聞いたところ、「募金をする」「児童労働について詳しく調べる」と答えた者が多かった。

【問題解決に向けて授業後に取り組んだこと】

本当は、生徒たちから出てきた意見の1つである、「余り布で小物を作って販売し、売上金を寄付する」という取組をやりたいと思っていたが、他の授業内容との兼ね合いにより、時間がなくなってしまい、断念せざるを得なくなった。

そこで、短時間でできる取組として、児童労働問題を伝えるためのしおりを作成し、佐渡市内の図書館に寄贈することにした。なお、この取り組みは「本やインターネットなどで児童労働についてもっと詳しく調べたい」、「調べたことを伝えたい」という意見も多数上がったことから思いついたもので、私から生徒に提案した。また、佐渡市内の図書館に司書として長年勤務する、知人の協力を得て、実現へとつながった。

生徒たちは一人ひとり、それぞれの思いを込めてしおりを作成していた。その一部も紹介したい。

- 少しでも児童労働が減るように、多くの人にこの問題のことを知ってほしい。
- 私たちが当たり前だと思ってやっていた、勉強することや友達と遊ぶことなどが、当たり前のことではないと知ってほしい。
- このしおりを見た人たちに、児童労働の問題を解決するために、自分には何ができるか考えてほしい。

また、「自分が特に伝えたいこと」をわかりやすく伝えるために簡潔な表現を意識し、図を入れたり、色ペンを使用したりして、工夫しながら作っていた。

また、しおりの裏面には、以前 JICA から無償提供された、SDGs のアイコンシールを貼った。シールを貼ることにより、「児童労働を解決することも SDGs の目標達成につながる」というメッセージを込めることができたと思う。

完成後、2023 年 12 月中（1 カ月間）、知人の勤める図書館にしおりを置いてもらったが、知人曰く「一つも残らず、図書館の利用者さんの手に渡った」とのことだった。そのことを生徒に伝えると、「みんなの作ったしおりが全部誰かのところにいったと聞いて嬉しかった」「これからもこのような活動が増えると嬉しい」と話していた。

当初の予定とは異なる形となってしまったが、「児童労働をなくすために生活・福祉系列の 3 年生全員でできること」が達成できてよかった。



16. 授業者による自由記述

本実践は家庭科で扱う様々な内容と関連しており（保育分野、衣生活分野、消費分野）、私が担当する家庭科という教科は、国際理解教育／開発教育との親和性が高く、SDGs と関連付けて学ぶことができると、改めて気づくことができた。また、地理や政治・経済等、他教科の内容にも通じる部分があり、教科横断型の実践にもなりうると感じた。

最後に、本研修を受講して感じたことを 3 つ挙げてまとめたい。

- ①実際に取り組むことで、見えてきた課題も多く、まだまだ改善の余地があると感じた。
 - ・事前にシミュレーションをしてから本時の授業に臨んだが、予想外の反応があったり、一つ一つのワークに時間がかかったりして、課題が多数見つかった。
- ②自身の授業を見つめ直す機会となった。
 - ・授業中の自分の癖に気づき、改善につながれたことは大きな収穫となった。
- ③来年度、改善した指導案をもとに授業に取り組み、よりよい実践を目指したい。
 - ・生徒がじっくり対話しながら考えを深めていけるように、ゆとりをもった計画を立て、ブラッシュアップしていきたい。

参考資料：

- ・ 児童労働ネットワーク <https://cl-net.org/>
- ・ 認定 NGO 法人 ACE <https://acejapan.org/>
- ・ 認定 NGO 法人 ACE 「この T シャツはどこからくるの？ - ファッションの裏側にある児童労働の真実 - 」
- ・ JICAchannel1 <https://www.youtube.com/user/jicachannel1>

クイズ①

今までの被服製作で用いていた布の原料は何？

- A コットン
- B 絹
- C ポリエステル
- D アクリル

1

クイズ②

世界最大の綿花生産国は？

- A 日本
- B インド
- C 中国
- D アメリカ

2

これらの写真を見て気づくことは？



3

2 発展途上国における児童労働

(1) 児童労働に従事する5～17歳の子どもは2020年時点でどのくらいいるのでしょうか？

- ① 6000人
- ② 6000万人
- ③ 1億6000万人

4

2 発展途上国における児童労働

(2) 児童労働が特に蔓延しているのはどの分野でしょうか？

- ① 農業
- ② 工業
- ③ 商業

5

2 発展途上国における児童労働

(3) 児童労働に従事している子どものうち、学校に通っていない子どもの割合

- 5～11歳 ① 8% ② 28% ③ 58%
- 12～14歳 ① 35% ② 50% ③ 85%

6

2 発展途上国における児童労働

(4) 児童労働が起こる要因



7

2 発展途上国における児童労働

(4) 児童労働が起こる要因



8

教育が受けられない
ことによって
直面しそうな問題は？

9

先ほど考えた「問題」
関連しそうなものは？

10

数々の問題が連鎖している…
こちらの動画もチェック

(1) [【発展途上国・教育】SDGs動画シリーズ//ゴール4//質の高い教育をみんなに - YouTube](#)

11



12



13

今日の授業の振り返り

児童労働をなくすために
早速行動しよう！

14

生活に身近な Cotton の背景にある児童労働

～児童労働をなくすために私たちにできること～

3年 組 番 氏名 _____

1 写真から見る「 Cotton 産業の現状」

○2 枚の写真を見て気づいたことを書き出してみよう。

--

2 発展途上国における児童労働

児童労働とは

国際的に法律で禁止されている子どもの労働。15 歳未満の義務教育を妨げる労働や、18 歳未満の危険・有害な労働を指す。

(1) 児童労働に従事する5～17 歳の子どもは、2020 年時点で () 人。そのうち、約 7,900 万人が危険を伴う仕事に従事している。

(2) 児童労働が特に蔓延しているのが () セクター。全体の 70% を占める。

(3) 児童労働をしている5～11 歳の子どもの () % 近く、12～14 歳の子どもの () % が 学校に通っていない。

(4) 児童労働が起こる要因

供給側の要因	需要側の要因

3 教育が受けられないことによって直面しそうな問題

児童労働により、学校に行けずに必要な教育が受けられないことによって、子どもたちはどのような問題に直面すると思いますか？まず、自分の考えを書いてみよう。

4 動画視聴

【発展途上国・教育】SDGs 動画シリーズ//ゴール4//質の高い教育をみんなに
この動画を観たあとに感じたことを書いてみよう。

5 児童労働をなくすために私たちにできること

私たちにできそうなことは？自分の考えを書いてみよう。

6 振り返り

①今日の授業を受けて、最も印象に残ったことは？

②今日の授業内容を今後の日常生活に活かすとしたら、どのようなことができそう？

「ファッション造形」グループワークシート①

教育が受けられないことによって直面しそうな問題とは？

★ 班メンバー

--	--	--

グループワークの進め方

- ①各自が考えた「教育が受けられないことによって直面しそうな問題」をふせんに書く（内容が重複した場合は1枚にまとめる）。
 - ②ふせんの内容を確認し、関連しあっているものがあれば線でつなぐ。
- ※上記の活動にグループ全員で話し合いながら取り組むこと。

児童労働をなくすために私たちにできそうなこと

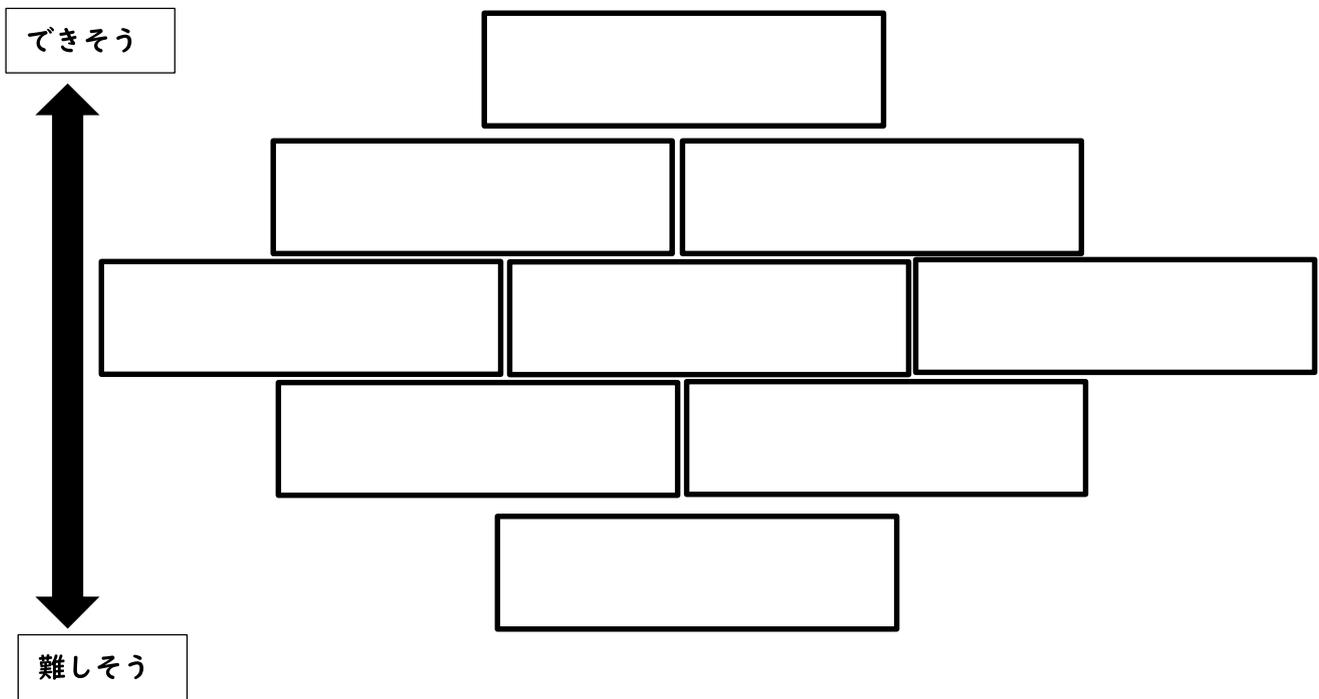
★ 班メンバー

--	--	--

グループワークの進め方

- ①コットン産業の児童労働をなくすための8つの方法例と、自分たちで考えたオリジナルの方法1つにランキングをつける。なお、ランキングをつける際は、「生活・福祉系列3年生全員でできそうなこと」を基準に考える。
- ②下のランキングシートに方法の番号(①~⑧)を記入する。

生活・福祉系列3年生全員でできそうなことランキング



コットン産業の児童労働をなくすための8つの方法例

①SNS に児童労働に対する自分たちの意見を投稿する。	②新聞に自分たちの意見を投稿する。	③本やインターネットなどで児童労働についてもっと詳しく調べる。	④アパレルメーカーに児童労働のない衣服を作ってほしいと提案する。
⑤児童労働をテーマにしたイベント・セミナーに参加する。	⑥買い物をするときに原産国表示をチェックしたり、お店の人に聞いたりする。	⑦児童労働に関する掲示物を作り、文化祭で紹介する。	⑧余り布で小物を作り、布を無駄にしないようにする。